

ほっかいどう NIE 通信

Newspaper in Education



発行 北海道 NIE 推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6

北海道新聞社内

☎011-210-5802

FAX011-210-5826

北海道新聞ホームページ「NIE」(https://nie.hokkaido-np.co.jp/) でバックナンバーから閲覧できます

新任アドバイザー抱負



別海・上西春別中学校校長 根本 涉さん

別海町立上西春別中学校校長の根本涉さん(56)は、中学校社会科教諭として新聞活用を始めた。町教委勤務時には、町内の全小中学生が月1回、新聞で学ぶ「別海町新聞の日」制定に尽力した。「NIEは学びの土台を築くだけでなく、良い市民の育成につながる。皆さんと力を合わせて取り組むたい」と抱負を語る。

学びの土台築く



新ひだか三石中教諭 川上 知子さん

新ひだか町立三石中学校教諭の川上知子さん(40)は、前任校の地理の公開授業で京都の景観、地元紙を教材に使ったのがNIEの原点。昨年の全国大会札幌大会では「アイヌ文化学習とNIEをテーマに実践発表した。現在は日高NIE研究会の事務局長。「NIEの良さを広めていきたい」と話す。

良さを広めたい



オンラインで開かれた推進協議会の総会

北海道NIE推進協議会(菊池安吉会長)の2022年度総会が5月14日、北海道新聞本社(札幌市中央区)を拠点にオンラインで開かれた。3年ぶりとなる北海道セミナーや、地区セミナーの開催計画、推進協議会の25年記念誌発行を盛り込んだ本年度活動計画などが書面決議で承認されたことを報告。21年度の優秀実践3校を表彰した。(関連記事3面)

新型コロナウイルス感染予防を考慮した書面決議は3年連続。議案は会員64人に送付し、過半数の承認を得た。総会には全道のNIEアドバイザー、本年度の実践指定校代表者ら教育報道関係者約40人が参加した。21年度の活動報告は、公開授業や実践発表など25分間の第26回NIE全国大会札幌大会に延べ1万1400件を超えるアクセスがあり、オンデマンド視聴数は約1750件だったことなどが紹介された。

推進協議会は昨年6月、創設25周年を迎えた。記念誌はアドバイザーや道内各報の寄稿を中心とする「本編」と、これまでのセミナーや全実践指定校など、25年間の歩みをまとめた「資料編」からなる。年内に発行予定。

北海道セミナーは8月10日に開かれる。推進協議会25周年を記念したパネルディスカッションは、8月23日に開かれる。推進協議会

優秀実践3校を表彰 推進協議会 25年誌、年内発行

スカッションを行う。地区セミナーは8月の札幌地区から計7回を予定する。21年度に優れた実践を行ったとして、別海町立中西別小(代表・本間智子教諭)、むかわ町立鶴川中(同・片岡鉄也教諭)、北海道科学大学高(同・山下卓教頭、立野統子教諭)の3校を表彰。賞状を贈るとともに、各校代表者が実践を紹介した。アドバイザーは3人が退任し、新たに根本涉さん(別海町立上西春別中学校)と川上知子さん(新ひだか町立三石中教諭)が加わり、13人体制となった。本年度実践指定校は37校。新規校を代表して3人があいさつした。

礼文小の授業ライブ中継

本年度地区セミナー7回

北海道NIE推進協議会は本年度、7回の地区セミナーを計画している(一覧表参照)。新型コロナウイルス感染予防から、オンラインを併用して開かれる。授業の多くは事前に撮影して公開するが、離島の町立礼文小からは、授業をライブ中継する予定。

本年度初回の地区セミナーは、「札幌地区」(8月23日、北海道NIE研究会共催)。以後、ほほ月に1回開催する。「宗谷地区」(9月7日)は、礼文小3、4年生の道徳の授業をライブ中継し、全道からの参加者が視聴する。学校では島内他校の教員も授業を参観し、研究討議を行う予定。問い合わせは推進協議会事務局(北海道新聞社内)、電話は011-210-5802へ。

2022年度NIE地区セミナー開催計画

日程	地区	授業公開校
8月23日	札幌	札幌・藤野小
9月7日	宗谷	礼文小
10月	日胆	未定
11月29日	根室	別海・中西別小
12月6日	上川	旭川・永山西小
12月20日	オホーツク十勝	(実践発表のみ)未定

註) 札幌：北海道NIE研究会共催
上川：上川・旭川NIE研究会共催
十勝：北海道十勝新聞教育研究会共催

NIE実践奮闘記

札幌市立栄南中、栄町中 学校司書 児玉 優子

一日のスタートは、新聞を読むことから。

私自身、新聞を読むことが好きなことから、生徒にも新聞に興味や関心をもってもらいたいという思いで、学校図書館での掲示物や展示に新聞をよく活用しています。新聞は、端的に文章や写真・図版がまとめられているので切り抜いて掲示しやすく、定期的に新しいものが入ってくるので活用しやすいメディアだと思います。生徒たちに少しでも新聞を身近に感じてもらえるよう、学校図書館で取り組んでいる実践を紹介させていただきます。



学校図書館前の掲示板を利用した掲示で、見どころを示した新聞の一面比べや社説

説比べを行っています。感染症対策で図書館利用に制限があった時期は、図書館

前の掲示が生徒と図書館をつなぐ大切な場でしたので、新聞を活用することで、見ごたえのある掲示ができました。また、生徒の関心が高かった東京オリンピックの際

「スキマ時間」を活用／生徒と本と新聞つなぐ

には日々の号外を一覧で掲示したり、北京冬季オリンピックの際には新聞から切り抜いた写真を大きな横造紙にコラーージュするなど、目を引く写真の力のおかげもあり、生徒はもちろん先生方にも好評でした。

次に、学校図書館の開館

時間以外でも自由に新聞が読めるような環境をつくりたいと始めた「スキマ時間」にNIEコーナーについてです。図書館前の掲示板に設け、オリジナルで作った段ボール製の閲覧台で新聞をめぐって読めるほか、生活や学びにつながる記事や話題の記事を掲示しているの、生徒はいつでも新聞に触れることができま

した。図書館前まで足を運ばなくても新聞を身近で読めるとあって、特に職員室近くに教室のある三年生が新聞を読んでいる姿をよく見かけました。今年は常時設置できるように、職員会議で了承を得たところです。日常的には、新聞記事と関連する本を一緒に展示して、本への興味関心を高めたり、社会とのつながりを感じることもできるようにしたりして、生徒と本と新聞をつなぐ活動にも力を入れていきます。

今年度、勤務校の栄町中学校は日本新聞協会認定の実践指定校に認定され、学校司書による実践が二学期から始まります。生徒と新聞をつなぐための、さらなる工夫や取り組みを進めて

やコメントを付け加えて記事の内容を補足したりして、興味をもって新聞記事を読んでもらえるような工夫もしています。

昨年、この「スキマ時間」にNIEを移動式の掲示板でも同様に作り、期間限定で職員室前に設置しま

いくととともに、先生方と連携を深め、授業や特別活動に活用できる新聞の提供や実践事例の提示など、学校司書ならではの視点で進めるNIE活動の実践を重ねていきたいと思っています。

義務教育学校、学校図書館でも

本年度、道内実践校37校

2022年度の道内NIE実践指定校が決まった。日本新聞協会認定は前年度より1校多い37校となった。北海道NIE推進協議会の独自認定校はなかった(一覧表参照)。義務教育学校や学校図書館を中心とした新たな取り組みも期待される。

内訳は、小学校13、義務教育学校1、中学校15、高

校6、高等支援学校2。新規校14、継続校は23となった。年度内の一定期間、新聞協会加盟各社の新聞が無償提供され授業で活用する。今春、樹海小学校と樹海中学校が統合した義務教育学校の富良野市立樹海学校は、小中連携した取り組みが可能になる。札幌市立栄町中学校は、学校司書がNIEの実践代表となる。学

【日本新聞協会認定】

<小学校>

- 登別市立富岸小学校
- 夕張市立ゆうばり小学校
- 岩見沢市立中央小学校
- 芦別市立上芦別小学校
- 別海町立中西別小学校
- 札幌市立桑園小学校
- 札幌市立栄南小学校
- ★札幌市立緑丘小学校
- ★札幌市立福移小学校
- ★日高町立厚賀小学校
- ★札幌市立明園小学校
- ★旭川市立永山小学校
- ★帯広市立愛国小学校

<義務教育学校>

- 富良野市立樹海学校 (小・中)

<中学校>

- 札幌市立もみじ台中学校
- 小樽市立北陵中学校
- むかわ町立穂川中学校
- むかわ町立鶴川中学校
- 札幌市立北辰中学校
- 札幌市立あやめ野中学校
- 平取町立平取中学校
- 浦幌町立上浦幌中学校
- 函館市立銭亀沢中学校
- ★札幌市立真栄中学校
- ★札幌市立栄町中学校
- ★標津町立標津中学校
- ★別海町立上西春別中学校
- ★幕別町立忠類中学校
- ★芽室町立芽室西中学校

<高校、支援学校>

- 札幌新陽高等学校
- 北海道札幌手稲高等学校
- 星槎国際高等学校帯広学習センター
- 北海道科学大学高等学校
- 北海道釧路東高等学校
- 北海道富良野高等学校
- ★市立札幌みなみの杜高等支援学校
- ★北海道函館高等支援学校

道内の本年度NIE実践指定校(★は新規認定校)

校図書館とNIEは、昨年のNIE全国大会札幌大会でも実践が報告され、NIE

E活動の広がり期待される分野だ。日本新聞協会は7月8

日、本年度の全国のNIE実践指定校534校(前年度比7校減)を認定。都道

府県別で、北海道は37校となり東京都の35校を上回った。

実践報告表彰 3校の取り組み

1年間の実践が評価、表彰された、小中高各1校の取り組みを紹介する。



北海道科学大学高校
山下卓教頭(右)、立野 統子教諭



むかわ町立鵠川中学校
片岡 鉄也教諭



別海町立中西別小学校
本間 智子教諭

社会問題の解決考える

昨年7月、複数紙を読み社会問題の解決を考える「探究活動の日」を設けた。2年生300人以上が目指したのはSDGs(持続可能な開発目標)の視点だ。7時間授業に集中しグループごとに考え、討議を経て発表につなげた。「高大一体教育」の実現を掲げる同高は今回のために系列大学の学生や教職員もそろえ、各教室をオンラインで結ぶなど環境を整えた。

年間を通じて、朝学習で「戦争・平和」に関する記事を校内に配信する。山下卓教頭は「読むスピードが上がり、生徒の関心が高まりました」。

防災教育 7紙読み比べ

全学年社会科の授業として、胆振東部地震から3年になる昨年9月の7紙を読み比べた。被災地はどのように復興が進み、今何が課題なのかを学んだ。

さらに2年生社会科の授業で「千島海溝・日本海沿いの巨大地震に伴う津波の新浸水想定について」の記事を読み、どのくらい浸水域が広がるか予想した。その上で、学校周辺を歩くフィールドワークを町民も参加して行い、被害や対策を考えた。片岡教諭は「防災を自分事としてとらえるのに新聞は有効だった。今後子供たちと何ができるか考えたい」。

小所帯を生かし楽しく

月1回の「別海町新聞の日」には、全小中学生に新聞が配布され、多彩な実践を行う。児童数27人の同校は小所帯を生かし、複式学級などで5紙の比較読み、まわしよみ新聞、かべ新聞づくりなどを展開する。

実践報告書の題は「『一人で読む』から『みんなと読む・伝える』へ」。児童が1人で新聞を手にとって数カ月後、次第にほかの児童に関心が向く変容を感じ取り導く。本間教諭は「1年目は児童が他者となつがる楽しさを味わった」という。自分の考えを持つことを目標に、2年目には相手への発信に力を入れる。

「30年」へNIE語る

推進協25年 8月、北海道セミナー

北海道NIE推進協議会が8月10日にオンライン開催する、第6回北海道セミナーのパネルディスカッションのパネリストとテーマが決まった。道内NIEの「これまで」と「これから」を話し合う。

パネリストは、日本新聞協会NIEアドバイザーの志田淳哉(札幌南高教諭)、渥美清孝(弟子屈町立和琴小学校長)と、アドバイザーを長く務めたNIEフェロリの福澤秀(旭川市立明星中学校長)、前フェロリの中原英雄(釧路市立清明小学校長)の4氏。司会は推進協議会副会長の兼間昌智さん

が務める。

パネル討論は、推進協議会設立25年を記念して行われる。「北海道のNIE25周年」新しい学びを創るNIE」と題して、「私とNIE」この25年、「新しい学びを創るNIE」二つのテーマを基に意見交換する。「新しい学び」では、「主体的な学びとNIE」「ICTとNIE」「30年に向けて」今後のNIEの三つの課題を設けて議論を深める。

視聴希望者は推進協議会事務局(北海道新聞社内)、電話は011・210・5802へ。

工夫凝らした実践 21年度報告書発刊

北海道NIE推進協議会は、道内のNIE実践指定38校が1年間行なった、教育に新聞を取り入れた授業例をまとめた「2021年度実践報告書」を発刊した。

指定校は小学11校、中学校15校、高校10校、高等支援学校と聾学校が各1校。昨年、オンライン開催されたNIE全国大会札幌大会の実践発表を行った9校を含め、担当教諭が使った紙面や指導案が掲載されている。

新型コロナウイルス禍の中の情報通信技術(ICT)の活用や、問題解決型の学習、



学校が地域や家庭と共有すべき教育目標のグランドデザインに関する記述もある。A4判。160頁。千部発行。無料で配布している。希望者は推進協議会事務局、電話は011・210・5802、ファクスは01・210・5826へ。

変わる紙面



写真をワイドに使った室蘭民報新紙面の「裏1面」

地域に愛され続けるため

室蘭民報社編集局報道部長 山田 晃司

「同じままで生き残るためには、変わらなければいけない」。イタリア貴族の凋落(ちようらく)を描いたヴィスコンティ監督の映画『山猫』で、アラン・ドロン演じるタンクレディが老公爵にこう言い放ちました。一見、矛盾しているようですが、現状を維持するために周囲の環境に合わせて自分も変わるべきという適応性を意識した、意味深い名台詞(せりふ)です」。弊社社長の野田龍也

が、室蘭民報の今年4月1日付別刷りに執筆したあいつつ文の冒頭の一節である。本紙は同日付から夕刊を朝刊に統合し、紙面スタイルを一新した。「変わった」点の第一は、最終面を「裏1面」としたこと。新聞の顔である1面の題字は、1945年の創刊初期の書体をモチーフに、黒文字の「室蘭民報」で重厚さをイメージ。社を築き上げた先輩方の努力への敬意を込めた。

面に移して、それまで別の面に掲載していたBS番組表と見開きにしたこと。多くの新聞が長年採用している定番スタイルを崩すのは、正直勇気が必要だった。当初は読者からの不満の声も数件あったが、幸い現在では「見やすくなった」との好評の声が多くなっている。

3点目は紙面のワイド化である。1面には室蘭だけでなく胆振管内で最もバリエーションのある記事を掲載。最終面は写真で見せる記事で大胆に大きく配置し、全国紙の夕刊や週刊誌風のレイアウトを目指した。また、2、3面は登別や伊達など西胆振を中心に札幌、東胆振といった各地のニュースを掲載。後ろから2ページ目の15面は、それまでの社会面と同様に胆振の軟派記事を網羅した。



一方、裏1面にも題字を入れた。こちらは「むろみん」とひらがなにしておいて、社会面らしく軟らかさを表した。違う題字が表と裏に使われているのは、全国でも珍しいのではないだろうか。それに付随する2点目は、テレビ・ラジオ欄を中

そして4点目は、コロナ禍に伴うイベント減少を背景とした減ページで、約2年間休載していた特設面の復活である。医療、暮らし、文化、町会、教育など、読者の生活スタイルに潤いを持っていただけるようなバラエティあふれる紙面作りを心掛けた。

これらの紙面改革を私たちは「第二の創業」と位置付けた。半年ほどかけて編集、営業、デザインなど社内横断的な協議の場を何度も持ち、テスト版を作製して新紙面を具体化してきた。新紙面スタートから3カ月が経過し、「こう変えたほうがよい」など試行錯誤の毎日である。今後は在るべき紙面内容について意見を伺う「むろみんモニター」の募集も検討している。

編集後記

○…今号が届くころ、NIE全国大会宮崎大会が開かれる。現地開催かオンラインかで直前まで揺れた札幌大会からもう1年。時の過ぎる早さに驚く。宮崎大会は3年ぶり現地開催となった。会場が旧交を温める参加者も多いだろう。一部授業はオンデマンドでも配信する予定。新型コロナウイルス感染拡大で東京、札幌と2大会続いた完全オンラインからハイブリッド方式に「進化」した。
○…当推進協議会は現在、創立25年記念誌の発刊作業を進めている。道内各地でNIEに取り組む先生から授業の思い出や将来への提言など、いろいろな内容の寄稿が届いた。

○…25年間の実践指定校は延べ929校、アドバイザーは同150人になる。地区セミナーは174回。若い頃、授業公開や実践発表した先生は、今やNIEのベテランだ。当協議会は全国大会を2回主管した。改めて歴史の重さを感じる。
○…2年間、新型コロナウイルスの影響で開催を見合わせた北海道セミナーは、推進協議会30年に向け意見交換する。教育はこの数年、新型コロナへの対応も加わり駆け足で変化する。GIGAスクール構想の前倒しで、情報通信技術(ICT)を使った授業の充実が求められる。新学習指導要領は本年度から、高校への導入が始まった。NIEの歩みは止まらない。(坂)

「いっしょに読もう」コンクール作品募集
日本新聞協会は、第13回「いっしょに読もう! 新聞コンクール」の作品を募集している。学校単位でも個人でも応募できる。
小中高生と高専生が対象で、昨年9月8日〜今年9月6日の新聞記事について家族や友人らと話し合う。応募用紙に記事を貼り付け、①記事を選んだ理由と感想②家族などの意見③話し合った後の自分の意見や提案を記入する。
応募用紙はNIEウェブサイトに(https://nie.jp/)からダウンロードできる。〒060-8711(住所不要)北海道新聞社みらい教育推進室内の北海道NIE推進協議会事務局に郵送する。9月7日必着。問い合わせは同事務局、電話は011-210-5802へ。